

北陸新幹線開業前後における旅行動態分析 ～和倉温泉・七尾地域を対象として～

仕明 祐人¹・藤生 慎²・高山 純一³

¹学生会員 金沢大学大学院 自然科学研究科環境デザイン学専攻 (〒920-1192 石川県金沢市角間町)
E-mail:mei091142@gmail.com

²正会員 金沢大学助教 理工研究域環境デザイン学系 (〒920-1192 石川県金沢市角間町)
E-mail:fujju@se.kanazawa-u.ac.jp

³フェロー 金沢大学教授 理工研究域環境デザイン学系 (〒920-1192 石川県金沢市角間町)
E-mail:takayama@staff.kanazawa-u.ac.jp

昨今の国内において観光産業は経済への寄与度が高いとして注目されており、各観光振興地域は様々な戦略から地域の観光産業発展を目指している。更に、2010年を機に国際観光市場は加速度的に成長しており、世界的にも“大旅行時代の到来”と称され、観光振興促進は今、地域経済の活性化における最重要分野の一つといえる。2015年3月14日の北陸新幹線金沢開業に伴い他地域の交流人口が増加している北陸地域においても、同様に、観光振興促進は取り組むべき最重要分野である。そこで本研究では、北陸新幹線開業後における当該地域の観光振興促進の課題検討を一助するため、旅行者の動態分析を行った。

Key Words : *tourism, Hokuriku shinkansen, questionair survey, Wakura onsen, Nanao city*

1. はじめに

北陸地域には、歴史的風情の漂う町並み（金沢・高岡）、名湯（宇奈月・和倉・加賀・芦原）、由緒ある寺院（瑞龍寺・那谷寺・永平寺・総持寺）、美しい山々（立山・五箇山・白山）、海岸（東尋坊）、海産資源等といった豊かな観光名所・観光資源が多く存在しており、誘引力の高い観光地域である。加えて、白川郷や飛騨高山への容易なアクセスが可能であり、立地的利点もいくつか考えられる。

昨今の数多くの国内観光振興地域が、「観光インフラ整備」や「通過型から宿泊旅行への転換戦略」、「ブランドイメージ戦略」によって旅行者の滞在時間の引き伸ばしやリピーターの確保を目指す中で、北陸新幹線開業に伴い旅行者が増加している当該地域においても、これらを目指す必要がある。

従って、偏りなくで当該地域内旅行の実態を明らかにすることができるアンケート調査法が観光促進の課題検討の一助には有効であると考えられる。

2. 既存研究の整理と本研究の位置づけ

観光分野に関する研究では、観光消費や満足度、交通量に関する研究が多く存在する反面、旅行者意識・行動に則した地域連携、周遊観光に関する研究は少ない。そこで桑子¹⁾らは、周遊観光における広域地域の出入口数と観光行動の関係性に着目し、設定した複数のトリップパターンに含まれる観光施設の質を向上した場合の便益を明らかにした。また、森川²⁾らは、周遊観光交通の時間推移・滞在時間をモデル化し、旅行者の複雑な意思決定に則した行動をマイクロシミュレーションによって予測した。

以上の論文はほんの一例であるが、周遊観光分析において、新幹線開業前後における旅行意識に則した観光実態を明らかにした既存研究は存在しない。そこで本研究では、北陸地域を対象に、新幹線開業前後における観光動態・観光意識・満足度を調査し、旅行者の旅行同伴人数や滞在期間、利用交通の実態を明らかにする。

3. アンケート調査の概要

アンケート調査の概要を表-1に示す。配布方法は温泉宿泊旅館・ホテルのフロントにて、おおよそ手配布で行

った。調査は全て温泉宿泊旅館・ホテルの宿泊客を対象に無作為に配布し、後日郵送回収の形式で行った。

北陸新幹線開業前後調査は2種類のアンケートを用いて行った。一方は回収率向上を目的とした簡易版調査アンケートで、もう一方は旅行者の観光意識を分析できる詳細版調査アンケートである。アンケート調査の調査項目を表-2に示す。いずれの調査アンケートも回答者属性(居住地・性別・年齢・職業・旅行頻度・訪問回数・人数)と旅行形態(予算・滞在期間・訪問動機・交通手段)を調査し、詳細版調査アンケートでは追加で訪問地・訪問施設・訪問動機・参加イベント・リピート意識・満足度・ニーズを調査した。

表-1 アンケート調査の調査概要

	開業前調査	開業後調査(詳細版)	開業後調査(簡易版)
調査期間	2014年11月～2015年3月	2015年4月～2016年3月	2015年4月～2016年3月
配布場所	和倉温泉宿泊宿、七尾温泉宿泊宿	和倉温泉宿泊宿、七尾温泉宿泊宿、能登小牧台、能登島	和倉温泉宿泊宿、七尾温泉宿泊宿、能登小牧台、能登島
調査対象	旅館宿泊客	旅館宿泊客	旅館宿泊客
調査方法	手渡し配布、後日郵送回収	手渡し配布、後日郵送回収	手渡し配布、後日郵送回収
調査項目	1.回答者の属性 2.旅行形態	1.回答者の属性 2.旅行形態 3.旅行満足度 4.ニーズ	1.回答者の属性 2.旅行形態
配布枚数	2000枚	5000枚	10000枚

表-2 アンケート調査の調査項目

No.	調査項目	
	簡易版	詳細版
1	旅行目的	旅行目的
2	同伴者	同伴者
3	旅行人数	旅行人数
4	滞在期間	滞在期間
5	利用交通	利用交通
6	居住地	居住地
7	旅行頻度	旅行頻度
8	訪問回数	訪問回数
9	予算	予算
10	性別	性別
11	年齢	年齢
12	職業	職業
13	-	前泊地
14	-	後泊地
15	-	訪問地
16	-	訪問施設
17	-	食事
18	-	参加イベント
19	-	訪問動機
20	-	来訪済み観光地
21	-	観光季節意識調査
22	-	リピート意識
23	-	観光満足度
24	-	観光ニーズ

4. 集計結果の考察

和倉温泉宿泊客を対象としたアンケート調査の配布・回収状況を表-3に、七尾市内宿泊客を対象としたアンケート調査の配布・回収状況を表-4に、能登島及び能登小牧台宿泊施設宿泊客を対象としたアンケート調査の配布・回収状況を表-5に示す。簡易版調査アンケートの配布枚数は2014年11月から2016年3月までで合計20500枚、回収枚数は合計1526枚、回収率は7.44%である。また、詳細版調査アンケートの配布枚数は2015年4月から2016年3月までで合計10000枚、回収枚数は合計316枚、回収率は3.16%である。

表-3 和倉温泉宿泊客を対象としたアンケート調査の配布・回収状況

		和倉					
		簡易版			詳細版		
		回収(枚)	配布(枚)	回収率(%)	回収(枚)	配布(枚)	回収率(%)
開業前	2014年11月						
	2014年12月	163	a				
	2015年1月	109	(a+b=200)				
	2015年2月	104	0)				
	2015年3月						
開業後	2015年4月				21		
	2015年5月				29		
	2015年6月		4000	1.20	3	3500	1.51
	2015年7月						
	2015年8月	48					
	2015年9月						
	2015年10月						
	2015年11月	27			95		
	2015年12月	382	4000	10.23	51	3500	4.17
	2016年1月						
2016年2月							
2016年3月							

表-4 七尾市内宿泊客を対象としたアンケート調査の配布・回収状況

		七尾					
		簡易版			詳細版		
		回収(枚)	配布(枚)	回収率(%)	回収(枚)	配布(枚)	回収率(%)
開業前	2014年11月						
	2014年12月	276	b				
	2015年1月	197	(a+b=200)				
	2015年2月	155	0)				
	2015年3月						
開業後	2015年4月	6			36		
	2015年5月	16			44		
	2015年6月	1	4000	2.38	29	1500	7.67
	2015年7月				3		
	2015年8月	72					
	2015年9月				3		
	2015年10月				2		
	2015年11月						
	2015年12月	243	4000	6.08		1500	0.13
	2016年1月						
2016年2月							
2016年3月							

表-5 能登島及び能登小牧台宿泊施設宿泊客を対象としたアンケート調査の配布・回収状況

	能登島			能登小牧台			
	回収(枚)	配布(枚)	回収率(%)	回収(枚)	配布(枚)	回収率(%)	
開業前	2014年11月						
	2014年12月						
	2015年1月						
	2015年2月						
	2015年3月						
開業後	2015年4月						
	2015年5月	3	1000	25.30			
	2015年6月	78			1000	16.40	
	2015年7月				153		
	2015年8月	117			11		
	2015年9月	55					
	2015年10月						
	2015年11月	113	1500	8.20	150	1000	19.10
	2015年12月	10			41		
	2016年1月						
	2016年2月						
2016年3月							

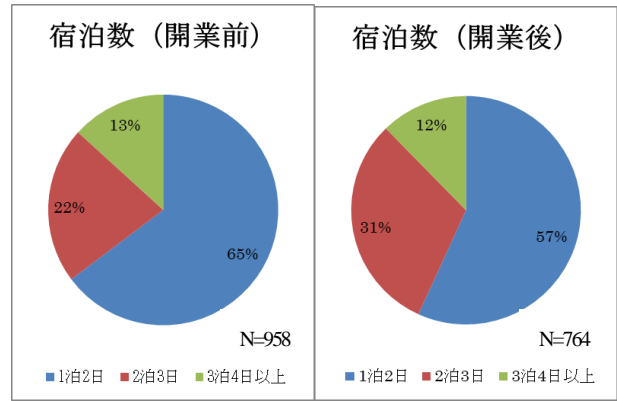


図-2 宿泊日数 (左：開業前, 右：開業後)

和倉温泉・七尾市内旅行の宿泊日数についての回答集計結果を図-2に示す。サンプル数は新幹線開業前が958、新幹線開業後が764である。開業前後で大きな変化はないが、2泊3日の旅行割合が22%から31%へと、増加した。

続いて、和倉温泉・七尾市内旅行について、新幹線開業前後の回答集計結果を考察した。

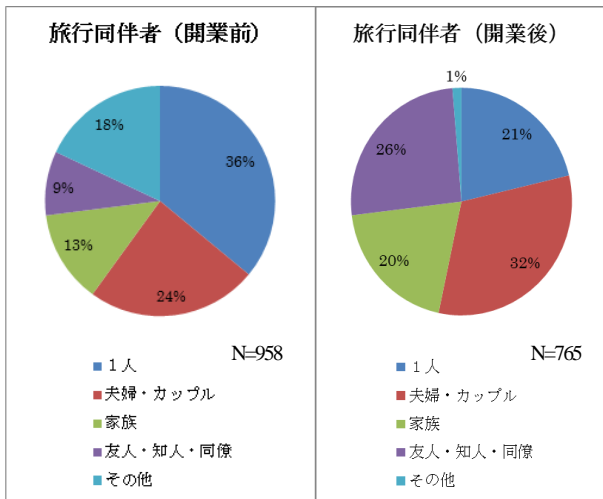


図-1 旅行同伴者 (左：開業前, 右：開業後)

和倉温泉・七尾市内旅行の旅行同行者についての回答集計結果を図-1に示す。サンプル数は新幹線開業前が958、新幹線開業後が765である。北陸新幹線開業前後で結果を比較すると、開業後の旅行者は、複数人旅行への変化傾向が見られ、1人旅行者の割合は36%から21%へと、大きく減少した。また、家族旅行の割合は9%から26%へと、約3倍まで増加した。

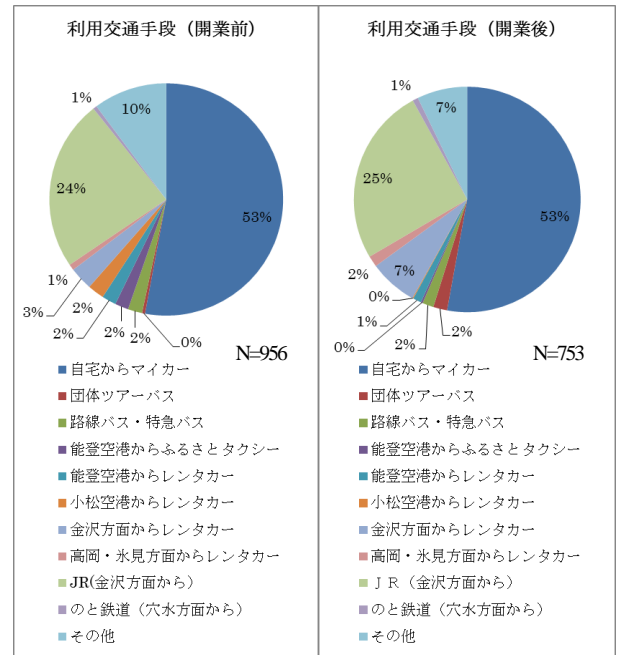


図-3 利用交通手段 (左：開業前, 右：開業後)

和倉温泉・七尾市内旅行の利用交通手段についての回答集計結果を図-3に示す。サンプル数は新幹線開業前が956、新幹線開業後が753である。開業前後において、金沢方面からのレンタカー利用者が3%から7%へと、2倍以上に増加した。

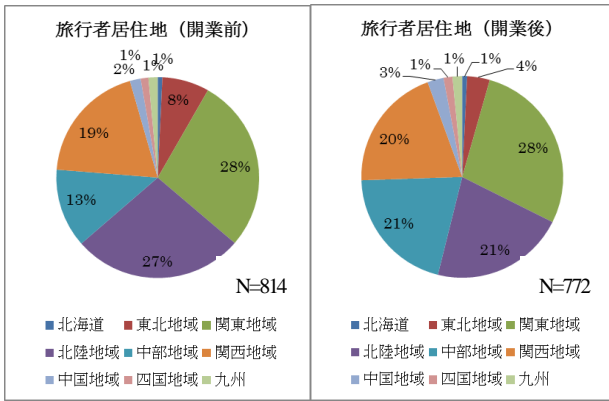


図4 旅行者居住地 (左：開業前, 右：開業後)

表-6 地域区分

北海道	北海道(1道)
東北地域	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島(6県)
関東地域	東京、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、神奈川(1都6県)
北陸地域	富山、石川、福井
中部地域	新潟、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知(9県)
関西地域	京都、大阪三重、滋賀、兵庫、奈良、和歌山(2府5県)
中国地域	鳥取、島根、岡山、広島、山口(5県)
四国地域	徳島、香川、愛媛、高知(4県)
九州	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄(8県)

和倉温泉・七尾市内旅行の旅行者居住地についての回答集計結果を図-4に示す。また、地域区分を表-6に示す。サンプル数は新幹線開業前が814、新幹線開業後が772である。開業前後において、中部地方からの旅行者が13%から21%へと、大きく増加した。

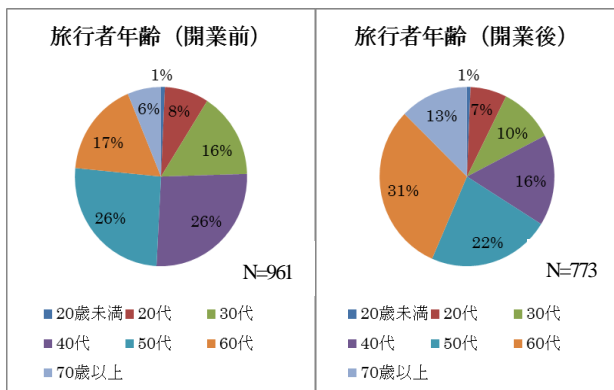


図5 旅行者年齢 (左：開業前, 右：開業後)

和倉温泉・七尾市内旅行の旅行者年齢についての回答集計結果を図-6に示す。サンプル数は新幹線開業前が961、新幹線開業後が773である。開業後の旅行者年齢は、やや高齢化の傾向が見られ、60代の旅行者の割合は17%から31%へと、約2倍まで増加した

続いて、クロス集計による和倉温泉、七尾市内、能登島、能登小牧台の地域比較結果について記す。

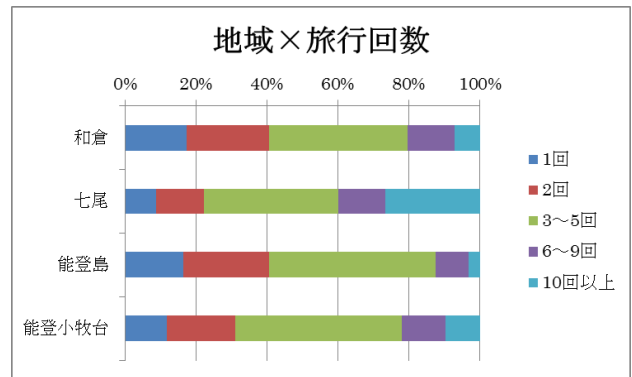


図-6 クロス集計結果 (地域×旅行回数)

旅行回数の地域比較結果を図-6に示す。サンプル数は、和倉が778、七尾が919、能登島が311、能登小牧台が337である。各地域において、8割以上がリピーターであり、特に七尾市内旅行者は最もリピーターの割合が大きく、約9割がリピーターであった。

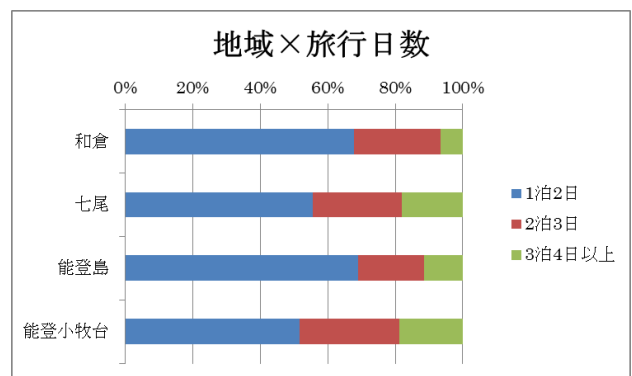


図-7 クロス集計結果 (地域×旅行日数)

旅行日数の地域比較結果を図-7に示す。サンプル数は、和倉が769、七尾が952、能登島が313、能登小牧台が336である。旅行日数が多い地域は七尾と能登小牧台で約5割が2泊3日以上であった。

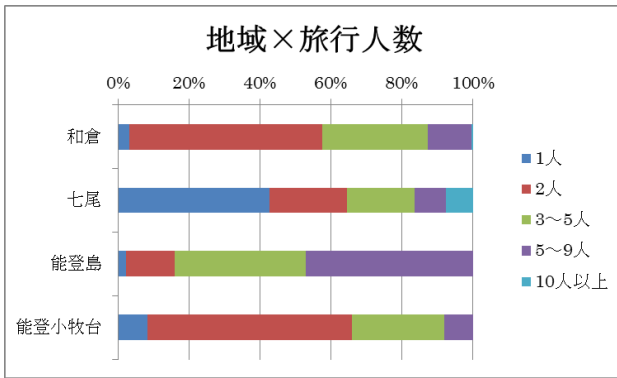


図-8 クロス集計結果（地域×旅行人数）

旅行日数の地域比較結果を図-8に示す。サンプル数は、和倉が778、七尾が897、能登島が309、能登小牧台が340である。和倉の旅行と能登小牧台の旅行は特徴的であり、約5割が2人旅行であった。また、七尾の旅行は1人旅行が約4割と多く、図-6の考察と合わせるとビジネス目的の旅行者が多いことが類推される。また、能登島の旅行は98%以上が複数人旅行であった。

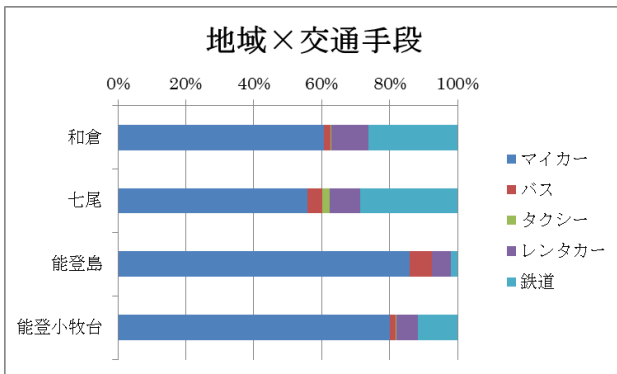


図-9 クロス集計結果（地域×交通手段）

旅行日数の地域比較結果を図-9に示す。サンプル数は、和倉が783、七尾が930、能登島が313、能登小牧台が341である。各地域において、マイカーを利用した旅行が主

流であり、中でも特に能登島の旅行は、マイカー利用割合が非常に多く、約9割がマイカー利用であった。また、和倉と七尾における旅行の鉄道利用割合はおよそ3割であった。

5. 結論と今後の展望

本研究では、北陸地域の観光産業発展の一助として、北陸新幹線開業前後における当該地域旅行者の動態分析を行った。

今回の分析では、北陸新幹線開業前後において、和倉温泉・七尾市内の旅行同伴者の増加や宿泊日数の増加、レンタカー利用の倍増等、当該地域の観光市場におけるポジティブな変化を明らかにした。一方、自動車を利用した旅行が各地域において大きな割合を占めており、ピーク時における交通渋滞や駐車容量の飽和が懸念された。加えて、自動車旅行の動態分析が更なる観光産業の発展に影響を与える可能性を示した。

今後は、旅行者の観光意識に関する分析から旅行者と自治体との意識のズレを解消することや、自動車旅行の動態分析を行い、当該地域の更なる課題検討を行いたい。

参考文献

- 1) 桑子幹弘, 河野達仁, Iis P. Yussyadiyah : 周遊観光における観光施設の質改善便益分析, 第 42 回土木計画学研究発表会・講演集, 2010
- 2) 森川高行, 佐々木邦明, 東力也 : 観光系道路網整備評価のための休日周遊行動モデル分析, 土木計画学研究・論文集 No.12, 1995

(2016.7.31 受付)

CHALLENGES OF REGIONAL TOURISM COOPERATION AFTER HOKURIKU SHINKANSEN OPENED

Yuto SHIMEI・Makoto FUJII and Jyun-ichi TAKAYAMA

Hokuriku Shinkansen was opened on March 14, 2015. Many tourists can come to Hokuriku region easily because of decreasing travel time from Kanto area. Moreover, tourism area for tourist might be expanding not only Kanazawa area but also Hokuriku area. Then, it is necessary to analyze the behavior of tourist in Hokuriku region after the Hokuriku Shinkansen opened. In this study, questionnaire surveys were conducted in Wakura area and Nanao area. As a result of questionnaire survey, it become clear that transportation mode is different each residential area and share of tourist from Kansai region is dominant.